

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 5/6 ベルブホール (ベルブ永山5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

ひなぎく

SEDMIKRÁSKY



監督：ヴェラ・ヒティロヴァー / 1966年 / 75分 / カラー
©State Cinematography Fund 配給：チェスキー・ケー

上映スケジュール

10:30 — 12:03 第1回上映
13:00 — 14:33 第2回上映
15:00 — 16:33 第3回上映
16:33 — 17:15 ゲストトーク
18:00 — 19:33 第4回上映
19:33 — 20:05 ゲストトーク (追加開催)

- * 全席自由席・各回入替制
- * 開場は各回 15分前
- * 上映時間は変更になる場合があります。
- * ゲストトークはチケット (半券含む) 提示で入場できます。

チケット料金

前売 大人 (中学生以上) 1,000円
当日 大人 (中学生以上) 1,200円
子ども (4歳~小学生) 600円

- * TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日1,000円です
- ☆ 女性2人で来場割引あり 当日各1,000円

各上映回に『Heavy Shabby Girl』(東 佳苗 監督) 併映
トークゲスト：ペトル・ホリー氏、東 佳苗氏 (縷縷夢兎)
(トーク時には『ひなぎく』をオマージュとして作られた『doll therapy』も上映)



企画者からのメッセージ

若い頃に観逃してしまったこの映画、昨年末に映画館に行くと若い女性で満員。ソビエトの圧政下、チェコスロバキアで撮られたこの映画のどこに惹かれるのでしょうか？という思いで若い人たちと共に意見を出し合い、企画しました。

監督のヴェラ・ヒティロヴァー氏は検閲をパスするために、提出したシナリオと実際に使用したシナリオを違えたといい、主人公の女の子2人のやりたい放題の毎日が描かれます。

冒頭で2人が「悪いことしよう」と言いますが、悪いこととはいったい？

社会主義の国ではおじさんを騙すことより働かないこと？

毎日オシャレをすること？ それとも笑い転げること？

また、この映画は音楽や編集 (フィルムをジグソーパズルのように切り刻んだり色を変えたり) でもたくさん遊んでいます。

ゲストに、チェコと日本文化の懸け橋となるペトル・ホリー氏と、併映映画の監督で縷縷夢兎(るるむう) ニットデザイナー、東佳苗氏をお迎えするトークもお楽しみに。 (小野寺綾子)

特別上映会特設ページ <http://www.tamaeiga.org/special/hinagiku>

『しゃぼん玉』

(東伸児監督 / 2017年)

宮崎県北部に位置する、ひむか共和国椎葉村。日本の原風景が今も色濃く残っているそんな村で繰り広げられる心温まる物語です。林遣都さん演じる若者が迷い込むようにしてやって来たこの土地で、ゆっくりと流れる時間のなか人々の温かさに触れ、自分の生き方にまっすぐ向き合うことが出来るようになるまでを丁寧に描いています。そしてその青年を優しい愛で包み込む老婆役に市原悦子さん。帰る場所が無いしゃぼん玉のような青年の帰る場所となる役を見事に演じています。

スクリーンに映し出される神秘的とも言える風景と豊かな自然に恵まれた土地ならではの郷土料理などに自分の思いを重ね合わせ、懐かしさのような気持ちを思い起こさせてくれます。私自身、山梨の山あいの町に住み、家族で帰省するたび優しい笑顔と温かい料理で迎えてくれた今は亡き義母を思い出し、熱いものがこみ上げてきました。そしてそんな気持ちに寄り添うように秦基博さんの透明感あふれる歌声がエンディングで流れます。温かな気持ちに身を置きながら作品の余韻を楽しむことができます。(田中はるみ)

『LION / ライオン ～25年目のただいま～』

(ガース・デイヴィス監督 / 2017年)

愛することの尊さを描く、実話をもとにした一作。

インドで暮らす5歳の少年サルーは、兄との仕事探しの途中、一人で回送列車に乗って居眠りをしてしまう。列車は進み続け、遠く離れた大都市へ。同じインド国内でも文化も言葉も違う町で、さまざまな危機に直面するサルーはやがて保護され、オーストラリア人の心優しい夫妻に養子として迎えらる。それから25年、幸せになればなるほど故郷の家族を思い苦しむサルー。自らの無事を伝え、家族に「ただいま」を言うために、かすかな記憶とGoogle Earthを手掛かりに、故郷を探し出す決意をする。

今作で最も印象的なのはサルーの幼少期を演じたサニー・パワールくん。彼はムンバイに暮らす普通の男の子。製作スタッフに見出され映画初出演に至った。インドの大地を懸命に駆け抜ける姿、母や兄を思う愛くるしさ、眼差し、冒頭から彼の虜になり、物語に引き込まれた。

また劇中で、育ての親スーはこう語る。「世界は人で溢れている。子供を産んで世界が良くなる？ 恵まれない子どもを助けるほうが、意義がある。」家族の在り方が多様化している今日、「家族」とは？「愛情」とは？これらの問いに一石を投じる作品だ。(手嶋椋太郎)

『SING / シング』 (ガース・ジェニングス監督 / 2016年)

動物たちが人間とおなじように二足歩行をして生活する街。そんな街のつづれかけの劇場をなんとか立て直そうと支配人バスター・ムーンは歌のオーディションを開催することにする。そのオーディションにはさまざまな問題を抱えた動物たちが自然と集まってきていた。大好きな歌とともに彼らは自らの問題と立ち向かい解決していくのである。

この作品はとにかく楽しい。音楽が好きな人なら確実にノリノリで観ることができる。私は吹き替え版で観たのだが、豪華声優陣により歌が彩られており、特にMISIAの歌声が圧巻であった。子供向けかなと思いつつ観始めたが、大人でも笑って泣いて目まぐるしい展開に飽きずに観ることができた。

夢を追いかけることは希望でもあり、それは時には残酷である。夢を追いかける人を応援することは出来るが、いざ自分がその立場だったら逃げ出したくなってしまふ。

しかし、道がある限り夢は諦めてはいけない、諦めきれないのが本当の夢なのだと感じた。大人になってしまった私に忘れてはいけない大事なことを思い出させてくれた。(船越彩加)

ここでは実行委員のおススメ作品を紹介いたします。ネタバレもありですのでご注意を。

『私の少女時代 — Our Times』

(フランキー・チェン監督 / 2016年)

2015年に台湾で大ヒットを記録した、王道青春学園ラブコメディ。90年代の台湾を舞台に、アンディ・ラウとの結婚を夢見る冴えない女子高生の恋愛模様を描く。

誰もが憧れる優等生に想いを寄せるヒロインは、「不幸の手紙」をきっかけに学校一のワルと急接近。やがて、互いの片想いを成就させるべく、共謀を図ることに――。

メガネを取って大変身！などなど、少女マンガの定番要素が満載だが、不思議と胃もたれ感は無く、満腹の多幸福感に包まれる。

さらに終盤では、それぞれの想いと思いの交錯が一気に解け、ぼろぼろ涙が止まらない。随所にちりばめられた笑いやノスタルジックな日本カルチャーも見どころ。

大人になった今、生涯の想い人と会えるわけでも、初恋の人が迎えに来てくれるわけでもないけれど（ああ残念）、心の中に夢みる少女が蘇る。老若男女問わず、誰もが忘れかけていたキュンキュン、ドキドキといった胸の高鳴りを覚えるはず。（石川祐妃）

『はらはらなのか。』

(酒井麻衣監督 / 2017年)

12歳の原ナノカ（原菜乃華）が自室の洋服ダンスから滑り着いたおとぎ話のような舞台上でミュージカルが始まる。冒頭から25歳の酒井監督ならではのファンタジー全開。

亡き母に憧れて女優を目指すナノカ。やっとなつかんだ主役の座は昔、母が出演した舞台の再演。でも芝居の壁に直面し、開演直前には過呼吸に。周りは「はらはら」しながら手を差し伸べる。これがすこぶるいい。

学校の先輩の凜（吉田凜音）は♪君の瞳で超えてゆけ♪と鼓舞し、先輩舞台女優のリナ（松井玲奈）は「舞台の上くらい夢見たいじゃない」と諭し、父（川瀬陽太）は「お前は どうしたい？」とそっと背中を押す。

そして舞台上に立てたナノカ＝菜乃華が「憧れ」に出会えた時、「はらはら」と涙を落とす。

大人へと踏み出す瞬間の眩さと夢の実現に踏み出す意思の輝きもたらす涙の美しさに身も心も震える。全ての夢追い人と応援する人に見ていただきたい。（長坂浩一）

『暗黒女子』 (耶雲哉治監督 / 2017年)

学園一の美少女で全校生徒の憧れの的だった〈白石いつみ〉が謎の死を遂げる。やがて、いつみが主宰していた文学サークルの誰かが彼女を殺したという噂が立つ。いつみの親友だった澄川小百合は、部員が自作の物語を朗読する定例会を開催する。テーマは、「いつみの死」。それぞれを“犯人”と告発する作品を発表していく。物語は5つ、動機と結末も5つ――果たして真実は。

女子校という世界から醸し出される独特の雰囲気。一瞬で終わってしまう女子高生ブランド。繰り広げられる裏切り合い。表面上はキラキラと華やかで美しい少女たちの「ごきげんよう」という挨拶、お嬢様風の話し方。全てが腹黒さや不気味さ、恐ろしさを引き立てている。なにが真実でなにが嘘なのか。誰も信用できない。5人からそれぞれ同じ日同じ時間の事が何度も語られるが、全く飽きさせず毎回新しい事実があり混乱させられ続ける。これでクライマックスかと思いきや、まだ終わらない。二転三転するストーリー。とても見応えがあり、引き込まれる。まさに全員悪女。飯豊まりえの「いーやーだ」には圧倒される。

いつみがいなくなり、小百合の支配下に置かれた文学サークル。小百合が卒業してもまた誰かの支配がはじまり、永遠にループしていくのでは、と想像してしまう。まさに美しい少女たちの裏切りエンターテインメントだ。（中村文音）

【シベ超クイズの答え：全て存在します。】

上映会 レポート

3/25(土) ベルブホール

湯を沸かすほどの熱い愛



宮沢りえさん・杉咲花さんが日本アカデミー賞最優秀主演女優賞・最優秀助演女優賞を受賞した余韻も覚めやらぬなか、中野量太監督をゲストにお呼びして上映会を行いました。

トーク冒頭、中野監督が「日本アカデミー賞で僕も最優秀ではないですが、優秀監督賞と優秀脚本賞をいただきました」とおっしゃり、おもむろに立ち上ってポケットから手のひら大のずっしり重いトロフィを2つ取り出して観客の皆さんに回覧してくださりました。そして、当初ほたるいかのイメージが高足蟹に変更になったこと、宮沢りえさん・杉咲花さんの別れのシーンの撮影秘話など身振りを交えてにこやかに語ってくださりました。

観客とのQ&Aでは客席から次々と手が上がり、すでに6回観ているというお客様からは娘の部屋のシーンで置いてあるぬいぐるみについて監督も驚くほどのコアな指摘も。トーク後もロビーで何人ものお客さんと語り合っていた中野監督。作品同様心温まる上映会になりました。(飯田淳二)

次回特別上映会

6/18(日)
ベルブホール

息の跡

trace of breath

次回特別上映会は『息の跡』(小森はるか監督)を上映いたします。お楽しみに!

お知らせコーナー

映画祭新実行委員募集!

TAMA映画フォーラム実行委員会は、2017年11月18日～11月26日に開催予定の第27回映画祭TAMA CINEMA FORUMと一緒に作る実行委員を募集しています! 興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか?

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい…など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

5月28日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページをご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭と一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。

ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員] 一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせください)

特典①:映画祭チラシ送付

特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日チケットを、支援会員特別価格に。上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

その他特典もご用意する予定です。

シベ超クイズ!

大ヒット映画にはそのパロディ映画が製作されることが良くあります(タイトルのみの場合もあります)。

さて、次の作品で実在するのはどれでしょう?(カッコ内がもととなった作品です)

- (1)『スペースボール』(『スターウォーズ』)
- (2)『人間ムカデ』(『ムカデ人間』)
- (3)『メタルマン』(『アイアンマン』)
- (4)『床ジョーズ』(『ジョーズ』)
- (5)『君の縄』(『君の名は。』)
- (6)『暴走特急シベリアン・エクスプレス』(『シベリア超特急』)

正解は前のページにあります。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

@tamaeiga (最新情報をフォロー)

www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)